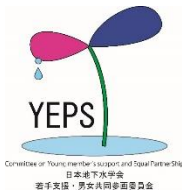


2023 年春季講演会「若手交流会」実施報告



日本地下水学会 若手支援・男女共同参画 (YEPS) 委員会

倉澤 智樹*1

榊原 厚一*2

2023 年 5 月 26 日 (金) 17:00~19:00 (イベント①) と 5 月 27 日 (土) の講演会の昼休み (イベント②) に若手交流会を開催しました。イベント①はオンライン開催で 18 名の方々に、イベント②は現地開催で 16 名の方々にご参加いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

イベント①では、参加者によるスライドを用いたお話と質問タイムを設け、自己紹介や研究・仕事内容、興味があることなどについて情報や意見交換を行いました。学会発表とは違い、ざっくばらんな雰囲気である異なる立場や業種の方々の普段はあまり聞けないお話を拝聴でき、視野が広がる有意義な交流会になったと思います。また、イベント②では、講演会当日のお昼休みに現地で集まり、意見交換を行いました。意見交換に先んじて、YEPS 委員より「若手が担う地下水学の未来と若手会の役割」に関する話題提供を行いました。この中で、土木学会水工学委員会 (2023) や Blöschl et al. (2019)、沖 (2023) を引用しつつ、学術的な地下水学会の役割について意見交換したとともに、他学会の動向や地下水学会の特色を取り上げ、「コミュニティとしての地下水学会の課題・問題は何か？」を参加者で議論しました。特に、参加してくださった学生の皆様にとって、このような視点から地下水学や学会について考える機会はあまりなかったと思います。実際に、会の中でたくさんの意見やコメントがあったわけではございません。しかしながら、むしろすぐに考えをまとめて、意見するのは難しいと考えます。これをきっかけに、少しでも若手の一人一人が地下水学会の今後や将来のビジョンについて考えてゆき、地下水学会を盛り上げ、学問として発展させられるように前進していけたら良いのではと考えます。そのためのきっかけとして、価値あるイベントになったと思います。



写真 1. イベント①の様子



写真 2. イベント②の様子

*1 愛媛大学

*2 信州大学

また、イベント②では図 1 に示す若手に焦点を当てた地下水学会の会員数の経年変化についても情報共有しました。本報にて、この図で確認できる事項を簡潔にご説明いたします。図 5(a)は 1990 年から 2022 年までの正会員、準会員数の変化、図 5(b)は 2009 年から 2022 年までの 36 歳以上の会員数と 35 歳以下の男女の会員数の遷移を示しています。これらの図から、ここ 10 年間ほどの総会員数が右肩下がりに減少しており、会員の構成では 35 歳以下の女性会員数が特に少ないことが分かります。男女 35 歳以下の会員数は、概ね総会員数に追従して減少傾向にあるようにみえます。実際に、図 5(c)で 35 歳以下の会員数と全会員数の関係を見ると、有意な正の相関があることが確認できます。一方、最近の 2020 年から 2022 年までの 3 年間は、回帰直線の右下にプロットが位置します。つまり、最近の 3 年間は、2019 年以前に比べると全会員数に対して若手（35 歳以下）の会員数が増加したといえます。総会員数は減少傾向にありますが、近年、若手会員数が維持または微増傾向である点に関して良い傾向であると思います。若手から地下水学会や地下水学を盛り上げていければと考えておりますので、引き続きよろしくご説明いたします。

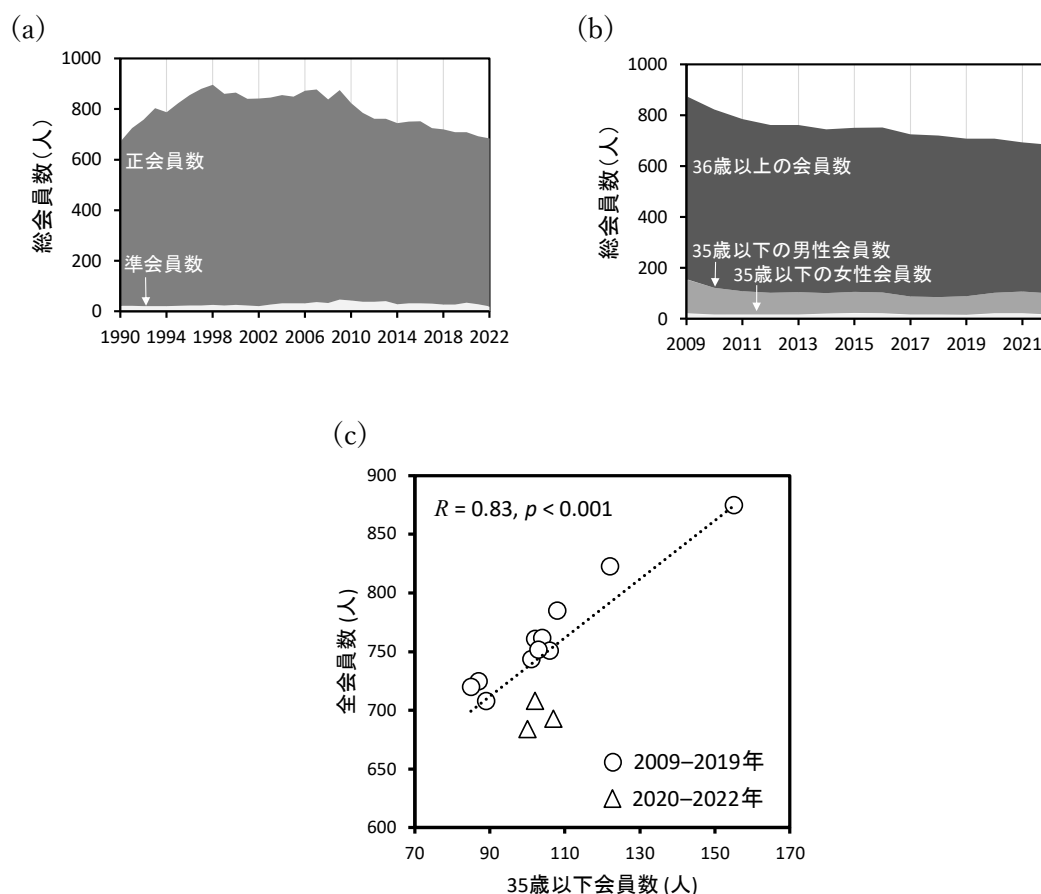


図 1. 若手に焦点を当てた地下水学会の会員数の経年変化。(a) 1990 年から 2022 年までの正会員、準会員数の変化、(b) 2009 年から 2022 年までの 36 歳以上の会員数と 35 歳以下の男女の会員数の遷移、(c) 35 歳以下の会員数と全会員数の関係

アンケート集計結果報告

若手交流会後に実施したアンケートの集計結果を図 2 に示しています。結果をみると、参加者の半数以上が学生の方で、社会人の方は 44% でした。また、社会人の方の内訳は、技術者の方が 25%、研究者の方が 19% であり、満遍なく各方面からご参加いただきました。若手交流会の内容では、アンケートにご協力いただいた全員の方から、“とても良かった”、“良かった”との回答を得ることができました。良かったと回答した理由として、“様々な分野の研究者や学生、社会人の方のお話を聞くことが出来たため”、“専攻している分野とは違った話を聞くことができ、興味を持つきっかけになったため”、“喋りやすい環境であったため”、などを挙げていただきました。一方、イベント①において“1人当たりの発表時間が短かった”とのご意見も頂戴しています。今後はもう少しゆとりのある意見交換の場を設けていけたらと思います。また、参加回数に目を向けると、はじめて参加された方が半数を占めており、参加者全員から今後も参加したいというポジティブなご意見をいただきました。情報源としては、web、メーリス、知人等を活用することで、引き続き多方面から情報発信していき、参加者を募っていきたいと思います。

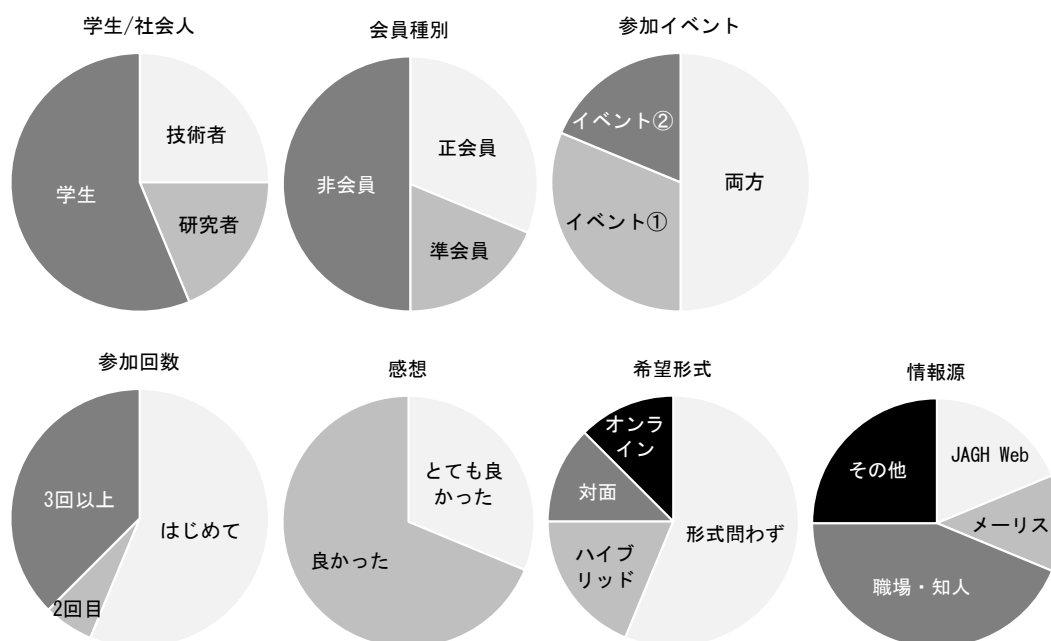


図 2. アンケート集計結果。イベント①と②のいずれかに参加した人数 22 名のうち 18 名の回答（回収率：82%）

おわりに

YEPS 委員会では、ニーズに合った企画をすることが責務であると思います。今後も、皆様のニーズを把握・開拓し、男女共同参画の推進と将来を担う若手の皆様の支援を通し、地下水学会を盛り上げていきたいと考えています。ご意見・ご要望、若手会への入会希望、若

手ニュースメールの登録希望などがございましたら下記までご連絡いただけますと幸いです。

連絡先（地下水学会 YEPS 委員会）：yeps@jagh.jp

文献

土木学会水工学委員会（2023）：水工学の今後 10 年の研究課題について、

<https://committees.jsce.or.jp/hydraulic/node/220>.（2023.5.21 閲覧）

Blöschl et al. (2019): Twenty-three unsolved problems in hydrology (UPH) – a community perspective. *Hydrological Sciences Journal*, 64, 1141–1158.

沖大幹（2023）：21 世紀の水文学と学会の未来. *水文・水資源学会誌*, 36, 1–8.